

伝統行事

# 先人の想いは、引き継がれる。

「伝統行事」は、その地域に伝わる催し物。どんな催し物も誕生の瞬間があり、そこには「行事」を生み出す想いが存在します。そして、月日を積み重ねることで、「伝統」となります。伝統行事とは、過ぎ去りし日々と今日をつなぐものかもしれません。



- 1 / 1月：鬼火焚き
- 2 / 11月：グラウンドゴルフ大会
- 3 / 9月：十五夜
- 4 / 12月：ふれあい餅つき大会
- 5 / 9月：境小校区合同運動会
- 6・7 / 7月：六月灯
- 8 / 8月：盆踊り大会 ※盆踊りは、平成27年度に復活した伝統行事です。

3	2	1
5	4	
8		6
		7

## 棒踊りとは？

牛根境の伝統行事の中で、特に有名なのは二月祭りの伝統行事として古くから伝わる「棒踊り」です。棒踊りは、守り神として信仰されている老神社に、地区民の一年間の五穀豊穡と家内安全を祈願する奉納踊りとして、現在まで伝わっています。

また棒踊りは、旧暦初春初申の日と定められ、この日が新暦の二月頃にあたることから、別名「二月祭り」と呼ばれ親しまれています。

棒踊りは、三尺・鎌・六尺という道具を持ち、6人が1組で勇壮に踊ります。前後2人は入れ替わりながら大きく切り合い、三尺と六尺は鎌の頭上で切り合い、トンボと呼ばれる動きで跳ねながら踊ります。

棒踊りの起源は、豊臣秀吉の

時代、朝鮮征伐の出陣を鼓舞するため、あるいは百姓一揆の隠れ武術を練習するための踊りであるとされています。そして、牛根境には、百年以上前に輝北の百引あたりから伝わってきたのではないかとわれています。

当時は、現在の境小学校より北側を「上」、南側を「下」として、鎌踊りが踊られて、昭和初期から上側が福地の踊りを取り入れ、6尺の杖を使う現在の棒踊りを始め、それに伴い下も取り入れ、現在に至っています。棒踊りは、戦争のため昭和18年頃から23年頃まで途絶えていましたが、戦後に復活しました。

現在は、境小学校の児童や職員、PTAに加え、地域の方々や「きばろう会」が加わり、校区を回っています。棒踊りをとおして子ども、地域、学校との信頼関係がつけられています。



## 棒踊りの唄

- 1 今こそとおる神にもめい
- 1 こんころめの国分、加治木へ鹿児島へ
- 1 七旗たてて おさのめのかず
- 1 おせろが 山は 前は大海
- 1 べぶんこの つのは もしよげがそっばい
- 1 とっしゃごのはなは もめば手にそむ
- 1 山太郎がねは 川の瀬にすむ
- 1 やけののきじは 岡の瀬にすむ
- 1 きりしま松は こがねの花が咲く
- 1 きよめの雨は ぱらりさらりと
- 1 もどれとの風は そよとふきがはな
- 1 だきよてねるは 月がさえこむ
- 1 むすめが前は 婿がなぐさむ